The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ワークショップ「異言語環境で日本の小説を読む」ー葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』ー発表資料
Author(s)	金, 香花
Citation	多言語翻訳 : 葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』. 2013, p. 58-58
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61317
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

２０１５年2月１３日

ワークショップ
「異言語環境で日本の小説を読む：葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』」
発表資料

金　香花

〇翻訳する際に難しかった点

計量単位や設備に関する固有名詞などを訳すのが少し難しかったと思います。(「才」、「セメン桝」、「量りこむ」等)

〇先行の翻訳と自分の翻訳との違い（工夫した点や留意した点など）

とくに以下の２点を留意しました。

① 登場人物の言葉使いの訳し方に注意しました。日本語の本文から想起される印象が、翻訳した中国語の文章においても伝わるようにするためです。とくに、日本語における男女での言葉の差に留意しながら、翻訳を行いました。

② 計測などに用いられる単位など、細かい所までできる限り、原作に忠実に翻訳しました。また、原作の雰囲気が伝わるように努めました。

〇翻訳対象言語において、この作品は問題なく受け入れられるかについて

訳す際に、難しい言葉より通常よく使われる言葉を選び取りました。おそらく普通に理解してもらえると思います。

〇この作品が、日本の高校の教科書に掲載されていることについて

高校生は、ある程度自己認識ができる年頃であると言えますが、それでもなど未成年で、思想などの面ではまだまだ影響を受けやすいと思われます。『セメント樽の中の手紙』には女工の恋人がクラッシャーの中へ落ち込み、砕かれ、セメントになってしまうシーンが描かれており、教科書に載せて大丈夫だろうかとも感じました。